

ユーザーガイド日本語版 T1-10007





タックシステム株式会社 IDE 事業部



Contents

Introduction

True Emulation? (トゥルー・エミュレーション) とは?	3
AV4PRO-DVIの機能:フロントとリア	Z
パッケージの内容	5
他に必要なもの(オプション)	5

インストレーション

設置	6
接続	7
ユーザー・コンソール	7
コンピュータシステム	8
電源の接続	9
RC4リモートコントロール・オプション	9
外部からのスイッチング	10
複数記の同期	11
EDIDビデオディスプレイ情報の管理	12
Hybrid DDC (DDC/CIサポート)	12

設定

コンフィグレーション・メニューを用いる	13
一般設定	14
キーボードショートカット(ホットキー)の変更	14
マウススイッチング	14
オプションポート・スピードの変更	14
オプションポートからのチャンネルセレクト	14
スイッチング・モード	15
その他の機能	15
アップグレード	16

オペレーション	
コンピュータの選択	18
フロントパネルでのコンピュータの選択	18
キーボードショートカットでのコンピュータの選択	19
マウスボタンによるコンピュータの選択	20
コンピュータへのアクセスをロックする	21
オートスキャン	22

その他の情報

サポート	23
付録-1:デフォルトのEDIDビデオモード	24
付録-2:ケーブルのピンアウト	25
保証	26
安全情報	26
ラジオ周波数エネルギー	27

インデックス

DDER

ション

シストレージ

 \sim

設定

ション

オペレ.

その他の情報

TIDE

1





ш Л

3

Ń

イスト

思知

 \mathcal{A}

ミシ

2

 \mathbf{r}

の端情報

ックス

ĺ٨

 \mathcal{A}

Adder Technology社のAdderView PROシリーズのプロフェッショナル・スイ ッチをご購入いただきありがとうございます。

4ウェイ・スイッチであるAdderView PROには3つのバージョンがあり、一人の オペレーターによる最大4台のコンピューターシステムと周辺機器の柔軟な制 御を可能にします。AV4PRO-DVIは各チャンネルにつき1台のディスプレイに対 応し、より大きいAV4PRO-DVI-DUALとAV4PRO-DVI-QUADは、各チャンネルに つきそれぞれ2台と4台のディスプレイに対応します。

弊社の高品質で効率の高いスイッチング技術により、各ディスプレイにデュアルリンク・デジタルビデオで最高毎秒450メガピクセルまで対応します。

この優れたビデオ性能を備えたこれらの機器は、4つのシステムをつなぐ単な るスイッチには留まりません。AdderView Proに接続したKVM、スピーカー、そ して2台のUSBデバイスは、通常通りまとめてスイッチできるほか、必要に応じ て自由に周辺機器と使用システムを組み合わせることもできます。例えばひと つのシステムでメールを作成し、他のシステムで音楽を再生、3台目のシステム でファイルをプリンターへ送り、そして4台目で他のUSB機器を制御することも できます。AdderView PROのフロントパネルでは、周辺機器を簡単かつ自由に 任意のシステムに接続できます。

AdderView PROには"True Emulation"技術が備わっており、ご使用のキーボードとマウスのすべての特性を各システムに確実に送信します。



True Emulation (トゥルー・エミュレーション) とは?

True Emulationは、USBデバイスを複数のコンピューターシステムで共有するための革新的な技術です。今まで、USBスイッチには以下の問題がありました:

- ・素早く、自然で、安定したスイッチング。
- ・接続しているUSBキーボードとマウスの正確な表現。
- ・接続しているUSBキーボードやマウスによるスイッチングの制御。

USB規格の複雑さから、以上の条件を満たすことは難しいとされてきました。そのためこれらによる問題に対し、いくつもの解決策が取られてきました。

Enumerated (列挙式:切り替え式) USBスイッチング

初期のUSBデバイスのスイッチングは、比較的単純な仕組みでした。列挙式 USBスイッチは、フロントに大型のノブを備えた旧式の機械式KVMスイッチ を電子化したものでした。

列挙式スイッチではスイッチングのたびに、接続されたUSBデバイスの初期化 ("Enumeration"という動作)が行われる必要がありました。これはUSB ケーブルを抜いて、再接続することと同じです。

列挙式スイッチでは、すべての信号がUSBデバイスからコンピューターへそのまま受け渡され、データの解釈などは行われません。多くのデバイスでは、妨害やパフォーマンスに影響なく機能を発揮できるため、有利なシステムでした。しかし多くのユーザーが望む、USBキーボードやマウスでのスイッチング制御ができないという欠点もあります。またスイッチングの安定性にも課題があり、特定のUSBデバイスやOSでは特に大きな問題となります。

エミュレートUSBスイッチング

複雑なUSBデータストリームを解釈し、接続されたUSBデバイス固有のプロファイルを再現(エミュレート)する技術が確立されると、エミュレート式USBスイッチが開発されました。

この方式を利用することで、USBデバイスが他のコンピューターにスイッチ されていても、残りのコンピューターにデバイスが接続され続けていると思 わせることができます。USBデバイスの列挙動作は最初の電源オンのときの み実行されます。その後は、他のコンピューターにデバイスがスイッチング されていても、残りのコンピューターはそのデバイスが未使用状態で接続 されていると解釈します。

しかし、USBデバイスをダイナミックに装い、接続されたすべてのコンピューターに分配し、必要な信号、状態、プロセスをすべて維持することはとても 複雑な作業です。

そのため多くのメーカーは、実際に接続されている機種とは関係なく、汎用 のキーボードとマウスプロファイルをすべてのコンピューターに提示する 方式を取りました。ですがこの方式では、標準レイアウト以外の特別なキー ボード/マウス機能は使えません。

True Emulation (トゥルー・エミューレーション)

弊社は、以前のUSBスイッチング方式の制限を考慮した上で、より効果的 でエレガントな解決策の開発に乗り出しました。多くのR&Dの結果が True Emulationです。

True Emulationはキーボードとマウスの完全なプロファイルをコピーし、 接続されたすべてのコンピューターに提示します。この方式により、特別なファンクションキーを備えたキーボードや、特別な機能を備えたマ ウスを、すべてのコンピューターで対応させることが可能になりました。 一般的なエミューレーション方式と同じように、選択されていないコンピ ューターでもキーボードとマウスを認識し続けるため、スイッチングを行 った際の再列挙は必要ありません。そのため再接続の時間が短縮される だけでなく、スイッチングの安定性も向上します(USBリンクは列挙作業 中に最も問題を起こしやすいため)。

True EmulationはEmulation Engineという高速回路を使って、USBデバイスのプロファイルを完全にエミュレートするほか、キーボードとマウスのデータストリームを解釈します。これによりキーボードショートカットや、マウスの第3ボタン/スクロールホイールを使ったKVMスイッチング制御が可能です。

True Emulationの機能性を必要としないUSBデバイスもあるため、True Emulation回路(図の青線)のほかに2つの列挙式回路(図の緑線)が備わっています。このようなUSBデバイスでは仲介を入れないことにより、最高速度での動作が可能になります。またUSBハブをTrue Emulationシステムと共有することで、列挙式回路の動作も安定します。なぜならTrue Emulation回路は各コンピューターと常に接続されているため、未使用状態のデバイスリンクを安定させ、列挙動作中のエラーを抑制するからです。

True Emulationと列挙式セクションを同時または個別でスイッチできる デュアルスイッチング構成により、高い柔軟性を実現しています。これに より接続した周辺機器を異なるコンピューターで使用できます。



ブルーで表示されたエミュ レーション部分は、エミュ レーションの必要なマウス 、キーボードのみに使用し ます。

グリーンで表示された列挙 式スイッチ部はエミュレー ションを必要としないUSB デバイスやハブをコンピュ ータに接続するために用い ます。



 \mathcal{A}

シ ヨ

ン エ

XX

 \succ

設定

 \mathcal{A}

3

28

 $\dot{\nabla}$

の他の情報

TIDE

AdderView PROの機能:フロントとリア

AdderView PROのシングルスクリーンとマルチスクリーン・バージョンは、共に頑丈な金属製のボディーに収められ、すべての接続端子はリアパネルに備わっています。フロントパネルには制御用のボタンと動作インジケーター類が備わっています。



・リモートコントロール: "Adder RC4"4ボタン・リモートコントローラーでチャンネルをスイッチングできます(詳しくは「RC4リモートコントロール・オプション」をご参照ください)。
 ・アップグレード:必要に応じてコンピューターに接続し、内蔵ファームウェアをアップデートできます。



ション

1

К

2

ςÞ

 \mathbf{t}

の端情報

К

5

چ آل

 \mathcal{A}



インストレーション

設置

主に2つの設置方法があります: ・付属の粘着ゴム足。 ・オプションのラックブラケット(AV4PRO-DVIモデルのみ)。

接続

注:AdderView PRO本体と電源アダプターの両 方とも動作中には発熱し、温かくなります。空気 の流れがなく、機器が放熱できない場所には設 置しないでください。また気温が40℃以上の場 所で、もしくは表面温度が40℃以上の他の機器 等に接触した状態で使用しないでください。

ラックブラケット(AV4PRO-DVIモデルのみ) オプションのブラケット(と4本のネジ)を使って、標準型のラックに 固定することができます。

 $\dot{\nabla}$

 \succ



TIDE





TIDE

接続は本ガイドの順番通りに行う必要はありませんが、できるだけ電源は最後に接続してくださ い。

ユーザー・コンソール

ユーザー・コンソールを構成するポートには、コンピューターシステムで共有する周辺機器を接 続します。接続する際は、本機の電源がオフであることをご確認ください。

ユーザー・コンソールに周辺機器を接続する。

1. ケーブルが余裕を持って届くように、周辺機器を本機の近くに置きます。

2. キーボードとマウス:

USBキーボードとマウスのケーブルを、キーボードとマウスの 絵が書いてあるUSBポートにそれぞれ接続します。キーボー ドとマウスは、どのUSBポートでも機能しますが、USB1とUSB2 ではTrue Emulation機能は使えません。

注:本機のTrue Emulation機能はキーボードとマウス の特徴をすべて読み取り、読み取ったプロファイ ルを接続されているすべてのコンピュー ターに提示します。 これにより特別機能を備えたキ ーボードやマウスにも完全に対 応します。

3. USBデバイス:任意でUSB周辺機器のケーブルをUSB1と USB2と書いてあるUSBポートに接続します。

注:これらのポートは列挙式:エミュレートを行わない切り 替え式のスイッチングを行います。

コンピューターシステム

各コンピューターシステムは、AdderView PROに最高3本のケーブルで接続します。

コンピューターシステムの接続

1. AdderView PROと、接続するコンピューターシステムの電源ケーブルが、それぞれ外れているこ とを確認します。

2. USBケーブル (タイプAからタイプB)を使って、コンピューターシステムのUSBポートと、本機リア パネルの希望するチャンネルのUSBポートを接続 します。

3. 必要であればステレオのオーディオケーブ ル(両端とも3.5mm端子)で、コンピュータ ーシステムのスピーカーポートと、本機 リアパネルの希望するチャンネルのオ

ーディオポートを接続します。

コンピューターの USBポートから

注:コンピューターをAdderView PROに接続する

ための、DVI-DとUSB(タイプA - B) 複合ケーブル

もあります(パーツ番号:VSCD3 2mケーブル

と、VSCD4 5mケーブル)。

コンピューターの

ビデオポートから

4. シングルスクリーン・バージョン:DVIケーブルか、VGA - DVI-Iアダプターケーブル(アナログ信号 を使用の場合)で、コンピューターシステムのグラフィックポートのビデオ出力と、本機リアパネルの 希望するチャンネルのDVI-Iポートを接続します。

ださい。

コンピューターのスピーカーポートから

注:本機リアパネルでは、同じチャンネルのコネクターは縦に並んでいます。水 平に並んでいるコネクター(V1からV4)は、それぞれ同じ高さにあるユーザーコ ンソールDVI-Iコネクターへスイッチングされます:

マルチスクリーン・バージョン:DVIケーブルか、VGA -

DVI-Iアダプターケーブル(アナログ信号を使用の場合)で、各コンピューターシステムのグラフィックポート のビデオ出力と、本機リアパネルの希望するチャンネ

ルのDVI-Iポートを接続します。





Channel 3 Channel 2 Channel 1

TIDE



跽

辊

電源の接続

AdderVlew PROは、12.5W (シングルスクリーン・バージョン) または20W (マルチスクリーン・ バージョン) 電源アダプターを使います。本機には電源スイッチがないため、電源アダプター を接続すると起動します。

電源アダプターの接続

1. 電源アダプターの出力プラグを、本機リアパネルの5V端子に接続します。



2. 付属の国別電源ケーブルのIECコネクターを、電源アダプターのソケットにつなげます。



3. 電源ケーブルをコンセントにつなげます。

注:AdderView PRO本体と電源アダプターの両方とも動作中には発熱し、温かくなります。空気の流れがなく、機器が放熱できない場所には設置しないでください。また気温が40℃以上の場所で、もしくは表面温度が40℃以上の他の機器等に接触した状態で使用しないでください。

RC4リモートコントロール・オプション

オプションのRC4リモートコントロール(パーツ番号:RC4-8P8C)を使えば、手元のボタンで 任意のチャンネルへ直接切り替えることができます。RC4リモートコントロール付属の3mの ケーブルで、本機リアパネルの"OPTIONS"ポートに接続します。

リモートコントロールの接続

1. 付属ケーブルの一端を、RC4リモートコントロールのソケットに接続します。



2. ケーブルのもう一端を、本機リアパネルの"OPTIONS"ポートに接続します。



TIDE

DDF

外部からのスイッチング

AdderView PROの"OPTIONS"ポートは、オプションのRC4コントローラや外部スイッチ、または外部シリアル入力を受け付け、コンピューターなどからのチャンネル選択を可能にします。RS232Cケーブルについては付録2をご参照ください。

オプションポート・ピンアサイン

オプションポートには、8p8cまたは10p10cコネクタが適合します。

1	1_0	8p8c	10p10c	Signal			
				1	チャンネルセ	レクト入力1	
			1	2	5VDC出力	(100mA max)	
			2	3	GND		
<u> </u>			3	4	RS232C (RXD))	
				4	5	予備RS232C(TXD)
OPTI	JN2		5	6	予備RS232C(RXD)	
			6	7	RS232C (TXD))	
				7	8	チャンネルセ	レクト入力2
			8	9	チャンネルセ	レクト入力3	

10 チャンネルセレクト入力4

コンピューター・リモートコントロールの接続

1. ケーブルの8p8cコネクターを、本機リアパネルの"OPTIONS"ポートに接続します。



2. ケーブルの反対側のコネクターを、スイッチデバイスの出力端子またはコンピューターのシリ アルポートに接続します。

RS232Cによるシリアル・コントロール

RS232Cによるシリアルコントロールを行う場合には、コンフィギュレーション・メニュー[0]を [1]または[3]に設定して、シリアルコントロールを有効にしてください。

シリアルポートのパラメーター設定

使用するシリアルポートが以下の通りに設定されていることをご確認ください: • Baud rate:コンフィギュレーション・メニュー[B]の設定と合わせてください • Data bits:8 • Stop bit:1

•Parity:なし

シリアルポートによるチャンネル選択コード

		ASCII Character	Hex	Decimal
Channel	1:	'1'	0x31	49
Channel	2:	'2'	0x32	50
Channel	3:	'3'	0x33	51
Channel	4:	'4'	0x34	52

注:上記のRS232Cコマンドまたは周辺機器からによる外部からの切り替え操作は、現在のス イッチング・モードによって動作します。

チャンネルセレクト入力による切り替え

オプションポートの4つのチャンネルセレクト入力によって外部機器からコントロールする 場合には、コンフィギュレーション・メニューの[0]を[3]に設定してチャンネルセレクト入力を 有効にしてください。

4つの切り替え入力ラインには、ドライ接点またはオープン・コレクタ出力を接続してください。各切り替え入力ラインをAV4 PRO-DVIのGNDに落とすことで切り替え動作が行われます

- ・Channel 1: チャンネルセレクト入力1 low
- ・Channel 2: チャンネルセレクト入力2 low
- ・Channel 3: チャンネルセレクト入力3 low
- ・Channel 4: チャンネルセレクト入力4 low

もし、ある入力ラインがロー(メイク状態)に落ちっぱなしになっていると、ハイ(オープン状態)になるまで他のチャンネルへの切り替え動作は行われません。また、複数の入力ライン がロー(メイク状態)に落ちっぱなしになっている場合は、若番のチャンネルが選択されます

注:切り替え入力ラインは、過電圧保護がされています。



тюе

複数機の同期

スレーブ

モニター

複数のAdderView PROを接続し、同期させることができます。例えば2台の AV4PRO-DVIを使って、AV4PRO-DVI-DUALのように2つのビデオモニターをス イッチングできます。同じく2台のAV4PRO-DVI-DUALを使って、AV4PRO-DVI-QUADのような機能性を得られます。さらに2台のAV4PRO-DVI-QUADを使え ば、最大8つのビデオモニターをスイッチングできます。

AdderView PROのチャンネルをスイッチすると、シリアルインターフェース(リアパネルの"OPTIONS"ポート)からRS232コマンドが送信されます。AdderView PROは、この信号をシリアルインターフェースで受信すると、それに応じてチャンネルをスイッチします。つまり、シリアルインターフェースをつなげることで、マスター機からスレーブ機(複数可)を制御することができます(図参照)。

コネクターのスレーブ側の送信ピンと、マスター側の受信ピンは意図的に接続 されていません。仮に接続されていたらスイッチングのループが発生してしま い、正しい動作ができなくなるからです。シリアル同期ケーブルについて詳しく は付録2をご参照ください。

マスター

モニター

AAF



複数のビデオ出力を 備えたコンピューター



跽



EDIDビデオディスプレイ情報の管理

AdderView PROが起動するとき(またはコンフィギュレーション・メニューで[F][2]オプションが選択されているとき)、接続されたモニターにEDID(Extended Display Identification Data)情報があるか、検索します。EDID情報がある場合は、これをコピーし、使用します。ない場合はAdderView PRO-DVIに内蔵されたデフォルトデータが使用されます。また新しいEDIDを検索することを防止し、登録された一つのEDIDデータのみを用いることも出来ます。

EDIDエミュレーション

AdderView PRO-DVIは、弊社独自のEDID Emulation (エミュレーション)機能を用いて、収集したEDID 情報(最大2ページ分)を、接続されたすべてのコンピューターに正しく伝達します。



Hybrid DDC

EDIDエミュレーションに加え、全てのAV4PRO-DVIはHybrid DDCを接続されたすべてのコンピューター に正しく伝達します。この機能は、DDC/CI規格(コマンドインターフェイス)プロトコルをサポートし、選 択されているコンピュータとディスプレイ間の完全な相互通信を可能にします。これによって、コンピュ ータからのプロフェッショナル向けのアプリケーションによるディスプレイ調整(明るさやカラーバラン スなど)が可能となります。またHybrid DDCは、HDCP(High-bandwidth Digital Content Protection)を 送信出来ます。

動作中のEDID情報の更新

AdderView PRO-DVIを再起動しなくても、接続されたモニターのEDID情報を 更新できます。

動作中にEDID情報を更新するには、

- 1. コンフィギュレーション・メニューを開きます。
- 2. [F]を押してFunctions(機能)メニューを開きます。
- 3. [2]を押してから[Enter]を押します。
- 4. [E]を押してから[Enter]を押してメニューを閉じます。

登録されたEDID情報による運用

起動時のビデオディスプレイ判別機能を防ぐことが出来ます。この機能を用いるには、接続されたコンピュータにあらかじめ登録されているEDIDのみを送信させます。EDIDデータを更新させるには、上記の[F][2]コンフィギュレーションを行います。

登録されたEDID情報を起動時に用いる設定

- 1. コンフィギュレーション・メニューを開きます。
- 2. [F]を押してFunctions(機能)メニューを開きます。
- 3. [3]を押してから[Enter]を押します。
- 4. [E]を押してから[Enter]を押してメニューを閉じます。

Hybrid DDC(DDC/CIサポート)

Hybrid DDCは、DDC/CI規格(コマンドインターフェイス)プロトコルをサポートし、選択されているコンピュータとディスプレイ間の完全な相互通信を可能にします。必要に応じてHybrid DDC機能を有効化、無効化することが出来ます

Hybrid DDC機能を有効化、無効化する

- 1. コンフィギュレーション・メニューを開きます。
- [U]を押してUser Preference (ユーザー設定)メニューを開き、続いて
 [9]を押すとHybrid DDC機能が有効になります。
 [0]を押すとHybrid DDC機能が無効になります。
- 3. [Enter]を押して設定を完了し、メインメニューに戻ります。
- 4. [E]を押してから[Enter]を押してメニューを閉じます。



TIDE

. う い

N.



コンフィギュレーション・メニューを用いる

設定モードではAdderView PROの機能の詳細を指定できます。

コンフィギュレーション・メニューの使用

通常の使用時ではフロントパネルの7セグメントディスプレイは、現在選択されているコン ピューター・チャンネル番号を表示します。この状態から設定モードに入るには:

- フロントパネルの"COMPUTER"ボタンを、約5秒間押さえます。
 ディスプレイは次のように表示します:
- 2 キーボードで、使用したいメニューセクションに相当する文字キーを押します(例:[S]) ディスプレイには押した文字が表示されます。例えば: **5**
- 3 希望する設定に相当する番号を押します(例:[4])
 ディスプレイには押した数字が表示されます。例えば: 4
- 4 [Enter]を押すと設定変更が実行され、メインメニューに戻ります。 ディスプレイは次のように表示します: [
- 5 他の設定変更を行うか(手順2)、設定メニューを終了します(下記参照)。

変更内容を保存し、コンフィギュレーション・メニューを終了するには、 ・[E]を押してから[Enter]を押します。変更内容が保存され、メニューが閉じます。

変更内容を破棄し、コンフィギュレーション・メニューを終了するには、 ・フロントパネルのボタンのいずれかを押します。

B	オプションポートのBaud Rate設定 1 1200 (default) 5 2 2400 6 3 9600 7 4 19200 Function(機能)設定モードに入る	に入る 38400 57600 115200	Esc を押すことでどのモ ードからもメインメニュー へ戻れます。メインメニュ ーでは、表示は次のように なります。	ADDI
	 現在のファームウェア・バージョン 接続されたディスプレイのEDID情報 起動時にディスプレイ判別機能を勢 出荷時設定にリセットします。ディ 	を表示します。 報を更新します。 禁止し、登録されたI ィスプレイに 「 とき	_(default) EDIDを用います。 表示されます。	インストレーション
Ξ	Hotkey $(+ - \sqrt{-} + \sqrt{-}$	ト)モートに入る Alt 左Ctrl + Alt 右Ctrl + Alt キーボードショー	トカットをオフ	設定
0	 Option Port設定モードに入る RS232Cシリアルコントロールによび切り替え選択入カポートは無効です RC4による切り替えを有効にします 	る切り替えを有効に す。 「。切り替え選択入フ	します。 ^(default) Dポートは無効です。	
P S	 [3] 1)と同様で、切り替え選択入力オ Password設定(Lockモード時に有効 Switch Mode設定モードに入る 1) Alt (default) 2) KVM+スピーカー 	ポートも有効にしま ⁻ 効)	す。 (default) は、出荷時設定です	オペレーション
T	 3 KVMのみ 4 スピーカーのみ 5 USB1のみ 6 USB2のみ Autoscan Time Delay設定モードに 	入る		その端情報
	1 オートスキャンをオフ 5 1 2 2秒 6 3 3 5秒 (default) 7 1 4 7秒 8 5	5秒 60秒 分		
U	 User Preferences (ユーザー設定) マウススイッチングをオン (defa マウススイッチングをオフ マウススイッチングをオフ すべてのポートをサイクル ("H 角効なポートのみをサイクル 	モードに入る ^{ault)} Hotkey + Tab"また ("Hotkey + Tab"ま	^(default) こは"Autoscan"使用時) こたは"Autoscan"使用時)	インデックス
	9 Hybrid DDC機能を有効にする0 Hybrid DDC機能を無効にする	(DDC/Clを送信) (default)		



피어운



キーボードショートカット(ホットキー)の変更

AV4PRO-DVIは[Ctrl]と[Alt]を標準ホットキーとして使用します。これらのホットキーが他の ソフトウェアやハードウェアでも使用されている場合は、別のキーに変更できます。

ホットキーの変更

1. 設定メニューを開きます。

2. [H]を押してキーボードショートカット(ホットキー)のメニューを開き、次のどれかを押します:

- 1Ctrl + Altを選択5Altを選択
- 2 Ctrl + Shiftを選択 6 左Ctrl + Altを選択
- 3 Alt + Shiftを選択 乙 右Ctrl + Altを選択
- 4 右Altを選択
- 8 キーボードショートカットをオフ

3. [Enter]を押すと設定変更が実行され、メインメニューに戻ります。

4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。

マウススイッチング

希望に応じてマウススイッチングをオン/オフできます。

マウススイッチングのオン/オフ設定

1. 設定メニューを開きます。

- 2. [U]を押してユーザー設定メニューを開き、次のどれかを押します:
 - 1 マウススイッチングをオン
 - 2 マウススイッチングをオフ

3. [Enter]を押すと設定変更が実行され、メインメニューに戻ります。

4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。

オプション・ポート・スピードの変更

オプションポートのシリアル通信スピード(ボーレート)を変更出来ます。

オプション・ポート・スピードの変更

- 1. 設定メニューを開きます。
- 2. [B]を押してBaud Rateのメニューを開き、次のどれかを押します:
 - 1
 1200を選択
 5
 38400を選択

 2
 2400を選択
 6
 57600を選択

 3
 9600を選択
 7
 115200を選択
 - 4 19200を選択
- 3. [Enter]を押すと設定変更が実行され、メインメニューに戻ります。

4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。

オプション・ポートからのチャンネルセレクト設定

オプションポートからのチャンネル選択機能を設定できます。

オプション・ポート機能設定

- 1. 設定メニューを開きます。
- 2. [O]を押してOption Portのメニューを開き、次のどれかを押します:

[1]を押すとRS-232Cシリアルコマンドによる切り替えを有効にします。(Appendix 2の オプションポートのピンアサイン情報及び、外部制御によるチャンネル切り替えコマ ンドの詳細をご参照ください。)ボーレートは上記の[B]設定メニューで設定されたス ピードとなります。なお、このモードでは、オプションポートのチャンネルセレクト入力 ピンによる切り替えは無効です。RS-232C切り替えとチャンネルセレクト入力の両方を 有効にしたい場合には、下記の[3]のモードを設定してください。

[2]を押すとオプションのRC4リモートからの切り替えコマンドを有効にします。(オプ ションRC-4コントロールの詳細をご参照ください。)この場合、ボーレートの設定は自 動的に無視されます。また、オプションポートのチャンネルセレクト入力ピンによる切 り替えも無効です。

[3]を押すと[1]のRS-232Cシリアルコマンドによる切り替えとオプションポートのチャンネルセレクト入力ピンによる切り替えの両方を有効にします。

- 3. [Enter]を押すと設定変更が実行され、メインメニューに戻ります。
- 4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。



Ш Л

3

ذ

ХX

スイッチングモード

設定メニューにて、デフォルトのスイッチングモードを設定することが出来ます。スイッチン グモードは、どの方法かによらず切り替え動作を行った時に、どのペリフェラル(KVM、USB1 、USB2、またはスピーカー)が切り替え先のコンピュータに接続されるべきかを決定します。 また、このデフォルトのスイッチングモードによらず、フロントパネル上のMODEボタンまた は、ホットキー操作によっていつでもスイッチングモードを切り替えることが出来ます。

(注) RC4リモート及びRS-232Cシリアルコマンドによる切り替えの場合には、このスイッチン グモードの切り替えに従って切り替えを行いますが、チャンネルセレクト入力による切り替 え操作時は、スイッチングモードの設定にかかわらず全てのペリフェラルが切り替わります。

デフォルトのスイッチングモードを設定するには

1. 設定メニューを開きます。

2. [S]を押してスイッチングモードのメニューを開き、次のいずれかのキーを押します。

- 1 全てを選択 (default)
- **2** KVM+スピーカーを選択
- KVMのみを選択
- 4 スピーカーのみを選択
- **5** USB1のみを選択
- **6** USB2のみを選択

3. [Enter]を押すと設定変更が実行され、メインメニューに戻ります。

4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。

その他の機能

ディスプレイからのEDID情報を更新するには

- 1.設定メニューを開きます。
- 2. [F]を押してファンクションメニューを開ます。
- 3. [2]を押してから[Enter]を押します。

4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。

登録されたEDID情報を起動時に使用するには

この設定を行うとユニットは起動時にディスプレイの検出を行わなくなり、PCへは登録された固定EDID情報が送信されます。EDID情報を起動時に取得する場合は、上記の[2]のモードに設定してください。

1. 設定メニューを開きます。

2. [F]を押してファンクションメニューを開ます。

- 3. [3]を押してから[Enter]を押します。
- 4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。

工場出荷時の設定にリセットするには

- 1. 設定メニューを開きます。
- 2. [F]を押してファンクションメニューを開ます。
- 3. [8]を押してから[Enter]を押します。ディスプレイには一瞬" r "の文字が表示されます。
- 4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。

現在のバージョンを表示するには

- 1. 設定メニューを開きます。
- 2. [F]を押してファンクションメニューを開ます。
- 3. [1]を押してから[Enter]を押します。

ディスプレイは一瞬無表示となり、その後一桁目のファームウェアのバージョン・ナンバーが 表示されます。次に再度無表示になった後2桁目が表示、再度無表示となった後に3桁目の バージョンナンバーが表示されます。(例えば、<blank>1<blank>0<blank>2は、Ver.1.02を 表します)

4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。

新しいパスワードを設定するには

1. 設定メニューを開きます。

2. [P]を押してファンクションメニューを開ます。ディスプレイには一瞬"="の文字が表示されます。

3. 新しいパスワードを入力してから[Enter]を押します。(コンピュータへのアクセス保護を ご参照ください)

4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。





AdderView PROはフラッシュ・アップグレードによってアップグレードできます。アップグレードを 行うには、"OPTIONS"ポートを使ってWindowsコンピューターシステムを接続する必要がありま す。

アップグレードに必要なもの

・オプションのアップグレード用ケーブル(ピンアウトの仕様については付録2をご参照ください)。 ・RS232シリアルポートを備えたWindowsコンピューター。

・最新のAdderView PRO用KVM Firmware Uploaderとファームウェア・ファイル。これらはAdder Technologyウェブサイト (www.adder.com)のTechnical Support>Updatesセクションからダウ ンロードできます。

KMMファームウェア・アップローダー・ユティリティーの使用

1. KVM Firmware Uploaderユティリティーを入手し、起動します。

AdderView PRO用KVM Firmware Uploaderの最新バージョンをAdder Technologyウェブサイト でダウンロードし、AdderView PROに接続できるWindowsコンピューターにインストールします。 ファイルは圧縮されたZIPファイルとしてダウンロードされます。このZIPファイルをWinZip(www.winzip.com)など適切なプログラムで解凍し、すべてのファイルをアップグレードに使用する コンピューターのひとつのフォルダーにコピーします。

2. AdderView PROの電源を切ります。

本機リアパネルから電源ケーブルを外します。

3. アップグレードに使用するコンピューターをAdderView PROに接続します。

オプションのアップグレード用ケーブルを使って、コンピューターのシリアルポートを、AdderView PROリアパネルの"OPTIONS"ポートに接続します。



次頁に続く コンピューターのシリアルポートの設定を調整する必要はありません 。設定はアプリケーションによって自動的に行われます。

4. アップグレードモードに切り替えます。

電源を入れる際(もしくは既に起動している状態で)、数値ディスプレイに"U"が表示されるま で"COMPUTER"と"MODE"ボタンを押さえます(10秒ほどかかることがあります)。

5. KVM Firmware Uploaderユティリティーを起動します。

KVM Uploaderアイコンを選択し、アップグレード・ユティリティーを起動します。KVM Firmware Uploaderダイアログが表示されます:



6. AdderView PROを検索します。

"Query Unit"(機器検知)ボタンをクリックして、AdderView PRO本機との通信ができている か確認し、さらに現在のファームウェア情報を取得します。正常に通信が確認されると"Unit connected"の欄にAdderView PROの名称、"Current firmware version"に現在のファームウ ェア・バージョンがそれぞれ表示されます。

アプリケーションがAdderView PROと通信できない場合は、まずケーブルの接続状態を再確 認し、次に"Advanced"ボタンをクリックして正しいシリアルポートが使用されているか確認 します。必要であれば、"Advanced"セクションでシリアルポートを変更します。



 \mathcal{A}

ш

3

ذ _

К

7. 使用するアップグレード・ファイルを選択します。

KVM Firmware Uploaderダイアログのメインセクションで、"Browse"ボタンをクリックし、次のア ップグレード・ファイルを選択します:

AV4Pro_xxx.txt

この際、"xxx"はファームウェア・バージョンを示します。

このダイアログ内にアップグレード・ファイルの詳細情報が表示されます。

重要:"Intended Target Units"欄と"Unit Connected"欄の内容が一致しているか、ご確認ください。内容が一致しない場合、間違ったアップグレード・ファイルである可能性があります。続行する前にAdder Technology Ltdにお問い合わせください。また"New firmware version"(新バージョン)が、"Current firmware version"(現バージョン)より大きい番号であることをご確認ください。



8. アップグレードを実行します。

アップグレードを実行するには、"Upload Now"ボタンをクリックします。ダイアログに進行状況が 表示されます。もしアップロードを中止する場合は、"Abort"ボタンをクリックします。通常ではす ぐに操作が中止されますが、消去コマンド中の場合は消去操作が完了するまで中止されません(これには数秒かかることがあります)。

9. 電源を切ってから、入れなおします。

電源ケーブルを外します。再度電源を接続すると、AdderView PROは新しいファームウェアで起動します。

フラッシュ・アップグレードを実行する際に考慮する事柄。

アップグレード用のプログラムは、本機内部のファームウェアコードを上書きします。もしア ップグレード操作が中断されると、無効なコードが残り、正常な動作ができなくなります。こ のため、アップグレード操作を必ず完了するようにしてください。アップグレードが中断、ま たは失敗した場合、大抵は再度アップグレードを行うことで修正できます。

警告:中断された、または不完全にアップグレードされたコードで本機を動作させると、予想外の問題が発生し、AdderView PRO本体やコンピューター機器が損傷を受ける可能性があります。



 \mathcal{A}

オペレーション



ン

シ ヨ

Ċ

Z

К

 \mathcal{A}

 \succ

設

コンピュータの選択

ー般的な周辺機器を特定のコンピューター・チャンネルに切り替える方法は4つあります: ・フロントパネルのコントロール。

・キーボードショートカット。

・マウスボタン操作。

・外部スイッチによるコントロール(RC4リモート、RS-232Cシリアルコントロール、オプション ポート入力選択ライン)

フロントパネルでのコンピューターの選択 フロントパネルでは、周辺機器を個別に任意のコンピューター・チャンネルへスイッチング



マルチスクリーン・バージョンのみ:V1からV4インジケーターは、現在選択されている コンピューター・チャンネルにアサインされているビデオモニターを示します。

1. スイッチングする周辺機器を選択するには、"MODE"ボタンを繰り返し押してスイッチン グモードを切り替えます:



注:インジケーターが点灯している場合、その周辺機器は現在他のコンピューター・チャンネ ルにアサインされています。

2. "COMPUTER"ボタンを繰り返し押して、希望するコンピューター・チャンネルを選択します。

キーボードショートカットでのコンピューターのスイッチング

キーボードショートカットを使って、キーボード、ビデオモニター、マウス、スピーカー、そしてUSB周 辺機器を希望するコンピューター・チャンネルに素早くスイッチングできます。 ショートカット操作には「標準」と「追加」の2とおりのホットキーがあります。

標準ホットキー操作

標準ホットキーは、最低限のキー操作でチャンネルを切り替えられます:

1. [Ctrl]と[Alt] (またはカスタム設定したキー)を同時に押さえます。

2. [Ctrl]と[Alt]を押さえながら、希望するチャンネルに相当する数字キー(またはTABキー)を押し、すべてのキーを放します。

注:ご使用のキーボードのテンキーは使用できません。QWERTYの上にある数字キーを使ってください。

この方法でスイッチングされるポート(KVM、オーディオ、USB)は、フロントパネルのボタンで設定 したスイッチングモードに従います。

標準ホットキーを使ったキーボードショートカットは以下のとおりです: 注:ホットキーを変更した場合は、[Ctrl]と[Alt]の代わりにそれらを使います。

Ctrl Alt 1 \mathcal{F}_{t}	シネル1を選択
------------------------------	---------

- Ctrl
 Alt
 2
 チャンネル2を選択
- Ctrl
 Alt
 3
 チャンネル3を選択
- Ctrl Alt 4
 チャンネル4を選択

Ctrl Alt 0 ユーザーコンソールをすべてのチャンネルから切り離します。

Ctrl Att Tab 次のチャンネルを選択(左記参照)。⇒) ホットキー+[Tab]キーでアクセスできるコンピューターの選択 ホットキー+[Tab](またはマウスボタン/オートスキャン)操作での選択肢に含まれるコ ンピューター・チャンネルは、設定メニューで指定できます: 1. 設定メニューを開きます。 2. [U]を押してから: 7.を押すとすべてのポートが含まれます。 3. [Enter]を押すと、設定変更が実行され、メインメニューに戻ります。

4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。



ш У

3

7

XX

追加ホットキー

標準ホットキーを使ったショートカット(左記)に加え、さらなるショートカットでスイッチ ングされる周辺機器を指定できます:

1. [Ctrl]と[Alt]を同時に押さえます。 2. 以下のコマンドキーを押します:

▲ すべての周辺機器をスイッチング
 ▲ キーボード、ビデオ、マウスのみをスイッチング
 ⑤ スピーカーのみをスイッチング
 Ũ USB1とUSB2のみをスイッチング

3. 希望するチャンネル番号を押します(QWERTYの上の[1]から[4]キーを使用)。 4. [Ctrl]と[Alt]を放します。

指定した周辺機器が選択したチャンネルにスイッチングされます。 注:この操作でスイッチングした周辺機器の組み合わせに関わらず、フロントパネルのイ ンジケーターはフロントパネルのコントロールで設定したスイッチングモードを示します

К

インデッ

19

マウスボタンでのコンピューターのスイッチング

マウスボタンを使って、キーボード、マウス、ビデオモニター、スピーカー、USB周辺機器を希望する コンピューター・チャンネルに素早くスイッチングできます。 注:この操作は3ボタンマウスやIntelliMouseデバイスで、さらに「マウススイッチング」オプションが オンの場合のみに使用できます。

マウスボタンでのコンピューターの選択

マウスの中央ボタン(またはスクロールホイール)を押さえます。
 たマウスボタンでチャンネル番号を上げる、または右マウスボタンで下げます。希望するチャンネルが選択できたら、中央ボタンを放します。

このスイッチング方法を使用する際:

・選択肢に含まれるコンピューター・チャンネルは、設定メニューで指定されます(右記参照)。
 ・スイッチングされるポート(KVM、オーディオ、USB)は、フロントパネルのボタンで設定したスイッチングモードに従います。

マウスボタンでアクセスできるコンピューターの選択 マウスボタン(またはホットキー+[Tab]/オートスキャン)操作での選択肢に含まれるコン ピューター・チャンネルは、設定メニューで指定できます:

1. 設定メニューを開きます。

2. [U]を押してから:

アを押すとすべてのポートが含まれます。

⑧を押すと動作中のポートのみが含まれます。

3. [Enter]を押すと、設定変更が実行され、メインメニューに戻ります。

4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。



ш Л

3

_

X

 \mathbf{i}

の端情報

コンピュータへのアクセスをロックする

機密性が必要な場合、ユニットを通して接続しているコンピュータへのアクセスをロックすることが出来 ます。

ユニットをロックするには

[CTRL]と[ALT](または、別途設定しているホットキー)を同時に押す。
 [CTRL]と[ALT]を押したまま[L]を押します。
 ディスプレイには"P"と表示され(この操作にはパスワードが設定されている必要があります)、正しいパスワードを入力するまでコンピュータへのアクセスはロックされます。

ユニットをアンロックするには

正しいパスワードを入力して[ENTER]を押します。

新しいパスワードを設定する

1.設定メニューを開きます。
 2.[P]を押して[ENTER]を押します。ディスプレイには"="と表示されます。
 3.新しいパスワードを入力して[ENTER]を押します。
 パスワードには、NUM lock、CAP lock、CRキーをのぞき、[ファンクションキーを含むほとんどのキーのコンビネーションを用いることが出来ます。
 パスワードを入力したときに、ご入力をしたとしても再度入力し直すことで再設定が可能です。
 4.[E]を押してから[ENTER]を押すと、データがセーブされてメニューを抜けます。

パスワードをキャンセルするには

1. 設定メニューを開きます。
 2. [P]を押して[ENTER]を押します。ディスプレイには"="と表示されます。
 3. [ENTER]を押してパスワードを削除します。
 4. [E]を押してから[ENTER]を押すと、データがセーブされてメニューを抜けます。

もし、設定されているパスワードを忘れてしまったときは

設定されているパスワードをクリアーするには、オプションポートへコンピュータのシリアルポートを接続し、テキストデータで"clrpwdと送信します。



ション



 \mathcal{A}

之 ヨ

Ч×

2

オンの場合、オートスキャン・モードは接続されているコンピューターを順番にスイッチングします 。これは接続されたコンピューターの動作状況を素早く確認するために便利です。

2つのスキャンモードがあります:

・すべてのポートをサイクル:このモードは接続されているすべてのコンピューターを順番にスイ ッチングします。このモードは下記の警告にある理由から、慎重に使用する必要があります。このオ ートスキャン・モードの準備をするには、設定メニューにて[U][7]を選択します(右記参照)。 ・動作中のポートのみをサイクル:動作中のコンピューターが検知されたポートのみを順番にスイ ッチングします。このモードは画面にブランクが表示されないようにする他、モニターがスタンバ イ状態を繰り返さないようにします。

さらにこのモードでは、マウスボタンやホットキー+[Tab]でチャンネルを変更するたびに、動作 中であるコンピューターのみがスイッチングされます。このオートスキャン・モードの準備をするに は、設定メニューにて[U][8]を選択します(右記参照)。

警告:多くのモニターには、動作していないコンピューターに接続されてから数秒後に自動的に省電 源モードに切り替わるリレースイッチが備わっています。このようなモニターをご使用の場合は、「す べてのポートをサイクル」するモードは使用しないでください。モニターのリレースイッチを繰り返し 切り替え続けると、モニターが劣化します。

2秒から5分間まで、7つのオートスキャン周期(各コンピューターを表示する時間)が用意されています。オートスキャンの周期を設定するには[T]を押してから、[2]から[8]の中から選択します(右記参照)。

オートスキャン・モードを開始するには、キーボードで[Ctrl] [Alt] [X]を押します。

オートスキャン・モードの選択

1. 設定メニューを開きます。

2. [U]を押してから:

- [7]を押すとすべてのポートが含まれます。
- [8]を押すと動作中のポートのみが含まれます。
- 3. [Enter]を押すと、設定変更が実行され、メインメニューに戻ります。

4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。

注:この設定項目は、マウスボタンやホットキー+[Tab]でチャンネルを変更する際に含まれるコンピューター・チャンネルも設定します。

オートスキャン周期の選択

- 1. 設定メニューを開きます。 2. [T]を押してから:
 - 1 オートスキャンをオフ
 - **2** 2秒を選択
 - 3 5秒を選択
 - 4 7秒を選択
 - 5115秒を選択
 - 630秒を選択
 - ー 7 1分を選択
 - 85分を選択

3. [Enter]を押すと、設定変更が実行され、メインメニューに戻ります。

4. [E]を押してから[Enter]を押すと、変更内容が保存され、メニューが閉じます。

オートスキャンの実行

・キーボードで[Ctrl] [Alt] [X]を押します。

注:オートスキャン実行中は、マウスでのスイッチング、ホットキー+[Tab]、さらにコンピュ ーターの制御はすべて無効になります。

オートスキャン実行中は、KVMとスピーカーのみがスイッチングされます。2つのUSBデバイ スは現在アサインされているチャンネルのままになります。

オートスキャンの終了

以下の手順でオートスキャンを終了します: ・フロントパネルの"COMPUTER"を押す。

・ホットキー+チャンネル番号で特定のチャンネルを選択。

К

5





インストレーション

設定

本章では以下を含む様々な情報が記載されています:

・サポート

- ・付録1:対応するビデオモード
- ・付録2:ケーブルのピンアウト
- ·安全情報
- ・保証

・ラジオ周波数エネルギーについて

サポート

トラブルシュート・セクションに記載された解決方法を確認しても問題が解決されない場合 は、以下の方法でお問い合わせください:

・Adder Technologyウェブサイト:www.adder.com 弊社ウェブサイトの"Support"セクションで最新の解決策やドライバーファイルをご確認く ださい。

- · Email support@adder.com
- Fax in the UK: 01954 780081
 in the US: +1 888 275 1117
- Phone in the UK: 01954 780044
 in the US: +1 888 932 3337

日本国内でのお問い合わせは、タックシステム(株)までご連絡ください。 TEL: 03-3442-1525 http://www.tacsystem.com info@tacsystem.com

付録1:デフォルトのEDIDビデオモード

以下のデジタルビデオモードは、AdderView PRO本機に内蔵されたデフォルトEDID情報に 含まれています。接続されたビデオモニターから新しいEDID情報がない場合のみ、この情 報が使用されます。AdderView PROは、以下のリストの記述を超える解像度やリフレッシュ レートにも対応します。

1024 x 768p	at 60Hz Native/preferred timing
720 x 400p	at 70Hz IBM VGA
720 x 400p	at 88Hz IBM XGA2
640 x 480p	at 60Hz IBM VGA
640 x 480p	at 67Hz Apple Mac II
640 x 480p	at 72Hz VESA
640 x 480p	at 75Hz VESA
800 x 600p	at 56Hz VESA
800 x 600p	at 60Hz VESA
800 x 600p	at 72Hz VESA
800 x 600p	at 75Hz VESA
832 x 624p	at 75Hz Apple Mac II
1024 x 768i	at 87Hz IBM
1024 x 768p	at 60Hz VESA
1024 x 768p	at 70Hz VESA
1024 x 768p	at 75Hz VESA
1280 x 1024p	at 75Hz VESA
1152 x 870p	at 75Hz Apple Mac II
1600 x 1200p	at 60Hz VESA STD
1680 x 1050p	at 60Hz VESA STD
1360 x 765p	at 60Hz VESA STD
1360 x 768p	at 60Hz
1440 x 900p	at 60Hz VESA STD
1280 x 720p	at 60Hz VESA STD
1920 x 1080p	at 60Hz VESA STD



л Л

付録2:ケーブルのピンアウト

"OPTIONS"ポートは10p10c端子を使用しており、10p10cの他、より一般的でイーサネット ケーブルに使われる8p8cコネクターにも対応します。本セクションには、両方のタイプのコ ネクターのピンアウト情報が記載されています。

シリアル・リモートコントロールとフラッシュ・アップグレード用のケーブル (8p8c)



シリアル・リモートコントロールとフラッシュ・アップグレード用のケーブル(10p10c)



マルチヘッド同期ケーブル(8p8c)



マルチヘッド同期ケーブル(10p10c)



TIDE

ш Л

 \succ







Adder Technology Ltdは、本製品ご購入から1年間のの間、部品や製造品質に不良や不具合が ないことを保証します。保証期間内に、通常の使用による不具合が起きた場合、Adderは無償で 本製品を修理または交換します。誤用や、Adderの制御下にない要因に起因する故障や異常に ついては保証いたしかねます。さらにAdderは、本製品の使用によって直接的/間接的に起きた 損失、損害、傷害について、一切保証いたしません。この保証規定での保証内容は、いかなる状 況に於いても、本製品の交換価格を上限とします。

もし本製品の設置や使用に関する問題が解決できない場合は、販売元にお問い合わせください。

・水気と油のない室内環境での使用のみ。

・AdderView PRO本体と電源アダプターの両方とも動作中には発熱し、温かくなります。空気の 流れがなく、機器が放熱できない場所には設置しないでください。また気温が40℃以上の場所 で、もしくは表面温度が40℃以上の他の機器等に接触した状態で使用しないでください。 ・警告:電源アダプターには危険な部品が含まれています。

・電源アダプター内には、ユーザーによって修理できる部品はありません。絶対に分解しないで ください。

・電源アダプターは、なるべく本機に近いコンセントにつないでください。

・電源アダプターを交換する場合は、メーカーに承認されたタイプのみをご使用ください。
 ・電源アダプターのケースに損傷、ヒビ、破損がある場合、もしくは正常に動作していないと感じた場合は使用しないでください。

・AdderView PROで電源延長ケーブルを使用する場合、このケーブルにつないだデバイスの合計アンペアが、コンセントの最大アンペアを超えないようにしてください。

・AdderView PROをご自身で修繕しないでください。

ラジオ周波数エネルギー

本機に接続して使用するすべてのケーブルは、ラジオ周波数エネルギーの放出に関する 規制に順守するため、さらに電磁妨害を抑制するためにも、シールドケーブルである必 要があります。

ヨーロップEMC指示89/336/EEC

本製品は検査により、ヨーロッパ基準EN55022の定義に基づき、クラスAコンピューター 機器の限度に適合していることが証明されています。これらの限度は有害な妨害から、一 定の耐性を維持するために設定されています。本機はラジオ周波数帯域のエネルギーを 発生、使用、放射するため、使用法通りに設置しないとラジオやテレビの受信に有害な妨 害を発する可能性が'あります。ただしどの設置条件でも干渉が起きないという保証はあ りません。本機がラジオやテレビ受信の干渉の原因となっている(本機の電源をオン、オ フすることで確認)場合には、次の方法によって干渉に対処してください。(a)受信アンテナ の設置場所や方向を変える。(b)機材から受信機への距離を大きくする。©別回路のコン セントに接続する。(d)取扱店または資格を持つラジオ・テレビ技術者に相談する。



ш Л

3

ذ

T

К

2

旣

FCC順守申告(アメリカ合衆国)

本機はラジオ周波数帯域のエネルギーを発生、使用、放射するため、メーカーが定める使用法通りに設置しないとラジオの通信に有害な妨害を発する可能性が'あります。本機は検査により、FCC規制パート15のサブパートJに定義されるクラスAコンピューター機器の限度に適合していることが証明されています。これらの規制要件に適合しているということは、本製品を業務用環境で使用しても、有害な妨害から一定の耐性を得られることを意味します。本製品を居住環境で使用すると妨害が発生する可能性があり、その場合はユーザーは自費でこの妨害を取り除く義務があります。メーカーに承認されていない変更や改造を行った場合、本機器の使用許可が無効化されることがあります。

カナダ通信省RFI申告

本製品はカナダ通信省のラジオ妨害に関する規則で定義されている、クラスAデジタル機器のラジオノイズ発生の限度を超過していません。



 \mathcal{A}

2011AdderTechnologlyimited
 All trademarks are acknowledged.
 Release 1.0k
 Novembe2011
 Part No. MAN-AV4PRO-DVI

Adder Technology Limited, Technology House, Trafalgar Way, Bar Hill, CambridgeCB238SQ, United Kingdom Tel:+44(0)1954780044 Fax:+44(0)1954780081

AdderCorporation,
350R Merrimac Street,
Newburyport,
MA 01950,
Jnited States of America
Tel:+1-888-932-3337

Adder Asia Pacific 6 New Industrial Road, Hoe Huat Industrial Building #07-01, Singapor 536199 Tel:+6562885767 Fax:+6562841150



タックシステム株式会社 IDE 事業部

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-5-1 TEL:03-3442-1525 FAX:03-3442-1526 http://www.tacsystem.com



Index



А

Assistance 23 Audio connection 7 Autoscanning 22

В

Brackets fitting 6

С

Cable pin-outs 25 Channel select input lines 10 Channel selection codes 10 Computer connection 8 ports 4 selecting 18 Configuration 13 Connections 7 computer system 8 multiple video heads 11 user console 7

D

DDC/CI 12

Е

EDID information 12 default video modes 24 Emulated switching 3 Enumerated switching 3 External control 10

F

Н

Firmware upgrade 16 Front panel switching 18

Host computer

connection 8 Hotkeys changing 14 selecting computers 19 what are they? 19 Hybrid DDC 12

Indicators 4

К

L

Keyboard connection 7 KVM 2

Lock the unit 21

Mounting 6 Mouse

Μ

Mouse connection 7 Multiple units synchronising 11 Multiple video head connections 11

0

Operation 18 Options port 4 behaviour setting 14 pinout 10 speed setting 14

Ρ

Parts supplied and extra 5 Password setting & entering 21 Peripherals connecting 7

R

Rack mounting 6 Remote control by computer 10,14 by RC4 unit 9 Remote wakeup 2 RS-232 serial switching commands 10

S

Safety information 26 Selecting computers with front panel 18 with hotkeys 19 with mouse buttons 20 Serial port settings for control 10 Speakers connection 7 Supplied items 5 Switching 18 by input lines 10 by RS-232 serial 10 Switching mode setting a default 15

Т

Troubleshooting 23 True Emulation 2,3

U

Unlock the unit 21 Upgrade firmware 16 USB device connection 7 USB Remote wakeup 2 USB switching emulation 3 enumeration 3 True Emulation 2,3 User console 4

V

Video modes 24 Video port connection 7

W

Warranty 26

ンドレーション

 \mathbf{i}